

である等持院をはじめとして名庭園のある龍安寺、臨濟宗妙心寺派の本山妙心寺、御室の桜に名高い法門跡の随一仁和寺、南北朝の昔のしのばれる大覚寺等、また兼好法師が徒然草を草したといわれる双ヶ岡、月雪花に歌われた広沢・大沢の池などがある。また高雄・まきの尾・とがの尾のいわゆる三尾の勝地がある。

周山からの山国線の沿線は、史跡と名勝に富むポケット盆地で、光厳天皇および後花園天皇山国院や、光厳天皇が御開祖である常照皇寺がある。――移動ポスト。(西山清氏)

けいかん 径間 (英) clear span * 橋梁(きょうりょう)において、1つの橋桁の橋台または橋脚前面間の距離。(菊地洋一)

けいきょうへんせいき 計器用変成器 (英) instrument transformer 特別高圧の電圧(60,000V等)大電流(3,000A等)大電力(5,000KW等)等を直接計器で測定することは危険であり、また計器の構造上不可能である。これらの不便を除くために用いられる変成器をいう。計器用変圧器と同変流器の2つがある。

1 計器用変圧器 構造は電力用変圧器と大差はない。ただ鉄心に多少優良な鉄板を使用すること、変圧器の電力損失が比較的小になるように設計されているのが特長である。特別高圧用のものは油入型が多く、普通高圧用には乾式が多い。特別の場合を除き2次電圧は110Vを標準とし、1次電圧は必要に応じ適当に選択される。このように危険な特別高圧の電圧を110Vの低電圧に変成し、簡単な電圧計で容易に計測できる。とくに1次巻線と2次巻線とは完全に電氣的に絶縁されているから取扱いに安全である。その他電力計・力率計等の計器、または保護装置としての継電器類にも同じ目的に利用される。

2 計器用変流器 原理は計器用変圧器と同様であるが、1次巻線の巻数がごく少数であるのが異なっている。構造上1次巻線が1本の導体からなっているものを棒型と呼び、数回より成るものを巻線型と呼ぶ。特別の場合を除き2次電流は5Aを標準として設計され1次電流は必要に応じ適当に選択される。このように直接測定困難な大電流を5A程度の小電流に変成して容易に電流計で計測できる。また1次巻線と2次巻線とは完全に電氣的に絶縁されているから、特別高圧回路の電流も安全に簡単な電流計で計測できる。その他電力計・力率計等の計器、または保護装置としての継電器類にも同じ目的に利用される。(村田良二郎)

けいこくあな 警告穴(ブレーキ弁の) (米) warning port 機関車用空気ブレーキ装置に用いるブレーキ弁の取扱上運転士に注意を与えるために、ブレーキ弁がある特定のハンドル位置の時にかぎって空気を吹き出し警音を発生させるために設けた穴。国鉄が現在使用しているウェスチングハウス社のブレーキ弁では、ブレーキ弁ハンドルがゆるめ位置にある時この穴が開き、自動ブレーキ弁の場合は給気弁の空気を吹き出し、この位置に長くおくと込め過になることを警告し、単独ブレーキ弁の場合は減圧弁の空気を吹き出し、ブレーキが無条件でゆるむことに對し運転士に注意を喚起させる。(高桑五六)

けいざいけいさん 経済計算 (英) economic calculation (独) Wirtschaftsrechnung 理論経済学上の経済計算論においては、社会主義経済組織のもとで、生産・消費その他の経済活動の諸量がいかんして定められるべきであるかということを対象としている。

しかし経済計算の思考自体は、必ずしも社会主義組織を前提としてのみ考えられるものではなく、1つの経済単位につき、生産・消費等経済活動のあり方を計算的には握吟味することを

意味する。

経済計算の思考が、国民経済全般にわたる指導理念として実践的に適用されているのはソ連のホズラスチョットである。ホズラスチョットは、わが国では独立採算制と訳されて、多くの文献によって紹介されている。経済計算の本質論については諸学者の説くところ、必ずしも軌を一にしたものはない。しかしそれらを要約するとつぎのような内容をもっている。

資本主義社会にあつては、原則として生産および消費は個人の自由委ねられており、商品の価格は取引市場における自由競争によって形成される。そこで個々の経済単位は合理的な価格計算もしくは費用計算を行い、費用の極小、利潤の極大を求めて経済活動を行うことにより、国民経済全体としての生産・消費その他の経済活動の諸量が自然的に調和均衡を得ると同時に、それらのうちに経済発展の根源が含まれることとなっている。しかるに社会主義社会にあつては、消費の自由、職業選択の自由はあるとしても、生産は原則として国家の手によって行われ、価格は国家の公定による。このような前提のもとにあつて、一般均衡のシステムを維持し、かつ経済の発展を推し進めるためには、経済活動の諸量を人為的に指導調整することが必要である。そのために、国民経済を構成するすべての経済単位体につき経済活動の諸量を計画し、それを責任をもって完遂させることにより、国民経済の合理的な運営と発展に寄与せしめようとするのである。

国鉄では、この語をつぎの2つの意味で使用している。その1つは、ソ連のホズラスチョットの思考を、国鉄の経済的管理の指導理念たらしめようとするものである。他の1つは経営内部の1部門に、新たな輸送施設または管理形態を導入しようとする場合、それにとりなす経済活動諸量の変化を計算的には握吟味することである。

1 国鉄の経済計算制度の概要

国鉄は創業以来政府の直接管理のもとにおかれていたが、昭和24・6公共企業体として独立採算によって企業的に運営されることとなった。

しかし当時の国鉄は、戦時中における輸送施設の酷使と戦災による荒廃、終戦にとりなす復員と大陸鉄道職員の受入による要員の過剰、産業の衰退による貨物輸送量の激減、インフレーションによる収支基準の不均衡等各種の悪条件にわざわざいて、企業的にはほとんど自立し得ない状態におかれていた。

このような状態から脱して、公共企業体としての国鉄本来の使命を達成するためには、旧来の弊風を一掃し得る新たな管理方式の導入が不可欠のものとされた。これについて研究されたのが「独立採算制」による管理方式である。その要旨は昭和24・11に設置された独立採算制推進委員会が決定した独立採算制実施要綱につぎのように表明されている。

「国有鉄道の独立採算制は、国有鉄道が経営する事業の運営を合理化し、その財政的安定を図るとともに、さらに進んで国有鉄道による運輸の経済性を高揚し、もって国民の福祉増進を図ることを目的としてこれを行う。現在の国有鉄道は永年にわたる官庁的管理方式による弊害と、戦時中における経営規模の拡張および施設の荒廃等により、企業的に基だしい悪条件に陥っている。この現状から脱却し、公共企業体としての経営活動を円滑にするためには、その管理方式を企業的な運営にふさわしく、かつ高効率を発揮し得るように改めなければならない。

独立採算制は右の趣旨にのっとり、事業の運営にあたって、経済的運営に適正な規模ならびに業務量と、これに対応する経費および収入の基準を設定し、これを目標として経営活動を統